

この「広報ひこね」は42,050部作成し、1部当たりの単価は14円（1円未満切り捨て）です。ただし、原稿作成・編集などにかかる職員の人件費は含まれていません。

一彦根城再発見一
400年目の出会い
第19回 彦根城米蔵

現在、梅林となっている彦根城大手の西側は、冬の厳しい寒さが緩むころともなると、梅花の香りに誘われた大勢の人々で賑わいます。この梅林のある一帯は、江戸時代にはどのような建物が立ち、どのような姿だったのでしょうか。

築城当初の慶長期の縄張りでは、梅林となっている広大な曲輪に、大手を守備する目的で、家老の鈴木主馬と川手主水の屋敷が配置されていたようです。

ところが、大坂の陣を境に、新たな時代に対応するため、彦根城は縄張りの変更がなされました。内堀より内側の第一郭に配置されていた家老たちの屋敷は、内堀より外側の第二郭へ移動することとなりました。鈴木主馬と川手主水の屋敷も、その趣旨に沿って第二郭へ出ることになりましたが、実際には、鈴木主馬は、大坂の陣後に井伊直継の家老として安中城（群馬県安中市）へ移り、川手主水は大坂の陣で討死したため、大手の二人の屋敷に主はすでに居ませんでした。

二人の屋敷地は、その後、しばらく竹蔵として利用されていたようですが、やがて幕府領からの城付米5万俵を預かる米蔵17棟が造営されました。米蔵は幅3間（1間は約2m）ないし4間、長さは10間から24間までいろいろありました。琵琶湖を利用して船で運び込まれた米は、松原内湖から内堀を経て米蔵横の「埋門」に到着。この門で船から降ろされて各米蔵に保管されました。

米蔵が今日のように梅林に変わるのには、明治時代になってからのことです。

バイオディーゼル燃料で、ごみ収集車が走る!!

廃食油の回収を始めます

バイオディーゼル燃料で走るごみ収集車

家庭から出る廃食油（使わなくなった食用油など）は、精製することで、バイオディーゼル燃料（BDF）に生まれ変わり、軽油の代替燃料として使うことができます。

彦根市では、地球温暖化防止にも貢献するバイオディーゼル燃料を、一部のごみ収集車（写真上）の燃料として使用を始めました。



廃食油のリサイクルをすすみましょう

すでにいくつかの団体によって、彦根市内でも廃食油の回収が行われています。彦根市では、ごみ収集車でバイオディーゼル燃料の使用にあわせて、新たに市内の5か所の施設に回収ボックスを設置します（写真右）。

家庭から出た廃食油や、消費期限のきれた食用油を、油ボトルやペットボトルなどに入れて、回収ボックスに入れてください。

回収ボックスの設置施設 ▶市役所1階(生活環境課付近)、▶清掃センター玄関、▶福祉保健センター、▶鳥居本出張所、▶稻枝支所

持ち込みできる時間 月～金曜日の8:30～17:15（祝日を除く）

問い合わせ先 清掃センター管理課 ☎22-2734、FAX24-7787、または、生活環境課 ☎30-6116、FAX27-0395



人口と世帯数

平成19年8月1日現在

人口	111,185人 (+ 26)
男	54,682人 (+ 7)
女	56,503人 (+ 19)
世帯数	41,964世帯 (+ 37)

() 内は前月との比較

玄宮園で虫の音を聞く会

日時 9月1日(土)～同30日(日)
18:30～21:00 (入場は20:30まで)
入場料 大人500円、小・中学生200円

◆土・日曜日、祝日のイベント◆

野点茶会(一服500円)、邦楽演奏

◆平日のイベント◆

鳳翔台での茶席(一服500円)、舟雅楽の夕べ(毎週木曜日)

問い合わせ先 (社)彦根観光協会 ☎23-0001、FAX 26-1919



「広報ひこね」は、環境に配慮し古紙配合率100%の再生紙を使用しています。また、揮発性有機化合物の発生を抑えた大豆油インキを使用し、印刷は有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。